

市制施行62周年・文化の日記念式典

11月3日、「市制施行62周年・文化の日記念式典」が教育文化センターで開催されました。

今年の式典では、永年市政に貢献された市民功労の1人をはじめ、42人、12団体が表彰され、工藤市長から表彰状と記念品が手渡されました。

ここでは、表彰を受けた皆さんを紹介します。



市民功労

文化功労表彰

野口 英昭氏



功労の事績

氏は、昭和46年1月から現在までの40年間の永きにわたり、小学校の学校医として、児童の健康保持や健全育成に献身的に取り組み、学校保健の充実に多大な貢献をしています。

また、氏は、平成5年10月から平成17年9月までの12年間、行田市教育委員会委員を、平成12年10月から平成17年9月までの5年間は、同委員会委員長を務めました。

その間、学校教育においては、平成14年に、各学校の良さやその地域の伝統文化などの特色を活かした教育活動の推進を支援し、心豊かで創造力に富み、活力溢れる児童・生徒を育成する「スクールルネサンス事業」をスタートさせました。そして、平成15年には、国から「浮き城のまち人づくり教育特区」の認定を受け、行田市独自の教員採用による少人数学級編制を実施しました。また、平成16年には、「古代蓮の里ぎょうだ」のびのび英語教育特区」の認定

を受け、子供たちが小学校から英語に親しむことのできる授業を導入するなど、優れた識見と卓越した指導力をもって、全国に先駆けた教育環境づくりに尽力し、本市の教育、文化の振興と向上に貢献しました。

さらに、氏は、専門的な識見を持って、平成8年に、O-157の集団感染を未然に防ぐため、給食食材の納入時検査の徹底や検食の保存期間の延長など、学校給食の衛生管理の強化を指導しました。そして、平成15年には、SARSの感染を防ぐために、手洗いやうがいの徹底を指導することにもこの年の中学生海外派遣事業を中止するよう助言を行いました。また、市内全小・中学校の敷地内禁煙を実施するなど、常に情熱を持って、児童・生徒のため、健全で安心できる教育環境づくりに傾注しました。

生涯学習においては、市民の生涯学習の充実を図り、芸術文化の振興を目的とした教育文化センター「みらい」の開設に尽力し、また、スポーツ分野においても、平成7年4月から平成22年3月までの15年間、行田市サッカー協会会長を務め、その普及と振興に寄与し、スポーツを通じた、市民の交流活動や健康づくり、青少年の健全育成に功績を残しました。